

# 開かれた学校づくりと これからの商業教育



愛知県立岡崎商業高等学校長  
浅井 博義 氏

## 教育随想

本校は、明治三十五年に創立された県内最大規模を誇る西三河唯一の単独商業高校であります。平成十四年には創立百周年を迎え、盛大に記念式典も挙行了しました。

平成十四年から三年間、文部科学省の委嘱を受け、学校評価システムの調査研究を行ってまいりましたが、本年度も引き続き学校評価システムの研究を進めております。その一環として、過日、中学校の先生方を対象に授業見学会を実施いたしましたところ、藤井教育長様をはじめ、多くの先生方に授業を参観していただくことができました。商業教育の実際をつぶさに見ていただき、「商業高校をより深く理解できた」「生徒が生き生きと授業に取り組んでいる」等の良い評価をいただくことが

できました。今後も、開かれた学校を目指していろいろな方策を講じ、地域に密着した高校でありたいと思っております。

さて、今、キャリア教育（職業教育）が叫ばれていますが、元来、職業教育は、普通高校を含めてすべての生徒に施すべきであると考えます。普通高校も、情報教育や総合的な学習（課題学習）など、商業教育がかなり前に実践してきた教育をようやく取り入れるようになってきました。が、遅きに失した感否めませんが、商業教育の魅力は、実社会に出た時に身を助け、生きる力を付けるところにあります。これからの商業教育は、これまでの実学や体験学習を充実・発展させるとともに、課題発見力、問題解決能力、表現力等を育



平成17年9月1日  
**9月号**  
発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知県立岡崎商業高等学校長 浅井 博義氏	
この人に聞く	2
ピアニスト 河合 優子氏	
羅針盤	2
理科指導員 鈴木 悟	
ふれあい	3
新香山中 高嶽 利行	
特集	4
活性化するスポーツ少年団	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
上地学区親子夏祭り (平成4年)	
この本を	8

てる教育を取り扱っていく必要があると思えます。

変化の激しい高度情報社会、国際社会を生き抜く力を身に付けさせ、地域社会に有為な人材を輩出することが本校の使命と考えます。

(あさい ひろよし)





## シヨパンが導いた 人生の出会い

ピアニスト

河合 優子 氏

「生まれてから大学院卒業までずっとこの家で過ごしてきました。それが突然海を渡ることになったんです。」という河合さん。幼少の頃から慣れ親しんだグランドピアノが置かれた部屋でお話を伺った。

「ポーランドへ行くきっかけになったのは、大学院卒業の半年前のこと。十歳の頃から憧れていたピアニストがポーランドより来日しており、どうしても自分の演奏を聴いてもらい



たくて電話をしました。今の恩師であるヤン・エキエル教授です。」

二十世紀最大のシヨパンの権威であるこの恩師との出会いは、人生の転機であった。演奏を認められ、大学院修了と同時に渡欧し、教授の元で学ぶこととなった。

「練習はすごかったの。雲の上の存在の先生が、まだうまくもないこんな私に一生懸命教えてくださいました。先生の持つっている世界最高峰の技術と情熱のすべてを、一気に私に注ぎ込んでくださいました。それがうれしくて、感動して涙が出ました。ですからホームシックになったことなど一度もありませんでした。」

目を輝かせながら語り続ける。「幼いころ親から、『ピアノを弾きなさい』と言われたこともなかったし、将来の方向性を示されたことも

ありませんでした。ピアノが好きで自分からピアノに向かっていました。運動も好きでした。小学校陸上大会では一〇〇メートルで優勝したんですよ。焦らずいろいろやりたいことをやっていく中で、次第に自分の進むべき道が見えてきました。結果的に、急がなくてよかったです。」

シヨパンピアノコンクール入賞を契機に、コンサートピアニストとして本格的な活動が始まった。現在、世界を舞台に、演奏活動の他にもシヨパンに関する書物の翻訳や執筆をしたり、講座を開いたり、多忙な日々が続いている。

「ただうまく華麗に弾くだけでは演奏家とは言えないと思うのです。その曲に共感し、その感動をお客さまに伝えたい。そういう思いがあつてこそ初めてステージに立てます。」

コンサートピアニストとしての使命感到満ち溢れて語り続ける。「人生で自分を教え導いてくれる師匠と巡り合えると、自分でもびっくりするほど飛躍するんです。いい巡り合いは、人生最大の喜びです。」

重みを感じる一言一言。世界中に感動を与える河合さんのピアノを聴ける日が待ち遠しい。

## 宇宙のイメージを とらえる授業

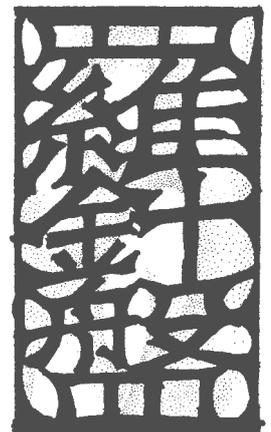
理科指導員 鈴木 悟

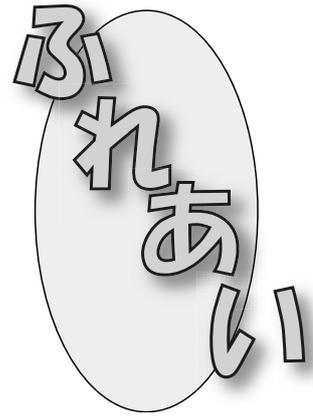
時間・空間概念が発達してきた中学三年生でも、地球の公転による星の年周運動をとらえるのは難しい。

A中学校のB先生は、この授業に様々な手立てを考えて取り組んだ。

「水瓶座の人はいますか」と教師の第一声。まず、生徒の関心が高い星占いの黄道十二星座を取り上げる。自作した一メートル五センチ四方の大きさの模型を使い、黄道十二星座がどのように決まったのかを説明した。今日の授業の足場に当たる部分である。

次に、「一月生まれの人は、一月の地球の位置に置いてください」と、地球に見立てた発泡スチロール球を渡す。生徒は、山羊座が太陽と重なって見える位置にその球を置いた。続いて二月、三月の位置に置かれ、見





## カヌーにかける想い

新香山中 高敏 利行

「がんばれ。ラスト。行けっ。」  
さわやかな快晴のもとで行われたカヌーの全国大会「カヤックペア」の決勝。A男たちは前半一位で飛び出した。観客の視線が一点に集まる。声援が、徐々に叫び声に変わる。僅差の勝負に、チームみんなが願いを込めた。

「やりきった。気持ちいい。」

ゴール後のA男の第一声。目標の三位以内達成かと、私の気持ちは躍った。しかし、結果は四位。「A男にはぜひメダルを」と、彼に対して期するものがあっただけに、A男のさわやかな笑顔と言葉にも、すぐには気持ちの整理がつかなかった。

体が小さいA男は、だれよりもたくさん練習をしてきた。朝は学校の

外周を人の倍以上走った。艇庫から船を出すのも、早かった。川に氷の張る真冬でも、目標を持ち、黙々と練習に励んだ。また、練習後は必ず懸垂などの筋トレを行い、仲間とも競い合った。休日も自主練習を重ねた。そんな姿勢がチームメイトから認められ、キャプテンに選ばれた。A男は、まぎれもなくチームの柱であり、彼の背中を見て部員たちは自然とまとまっていた。

そんなA男に、県大会前、突然スランプが訪れた。自分の漕ぎ方を体で思い出せない。漕ぐ動作の繰り返しであるカヌーは、調子を崩すとなかなか修正できない。気持ちの動揺が、さらに漕ぎ方を不確かなものにする。体の使い方が原因であることを私やコーチが指摘し、A男も修正を加えた。しかし、陸上ではできても水上ではできない。A男と私にとつてつらい日々が続いた。こうして迎えた六月終わりの県大会。結果は三好北中に惨敗であった。

「過去を引きずらず、新しい自分を作るつもりでやってみろ。」

落ち込むA男の前に私は声を振り絞った。それからというもの、納得いくまで漕いで漕いで漕ぎまくった。もかく気持ち以上に、距離と時間をこ

なすことで新しい自分を見出そうとした。そして、徐々に自分の漕ぎ方を取り戻し、力強さまで身に付けていった。こうして迎えた全国大会であった。

全国大会では自分の目標を果たせなかったA男ではあったが、彼を中心としたチーム力によって、カナディアンシングルで優勝者を出すことができた。

自分から進んで行動に移せない中学生が多い中、目標に向かって、妥協せずひたむきに練習してきたA男。常に自分との戦いであるカヌーとの出会いが、A男を一回りも二回りも逞しく成長させた。

今、A男は国体を目指し、自分の納得いく漕ぎ方を求めて、毎日三好池で練習に励んでいる。努力がいつか形になることを信じて。



る間に一年間の地球の位置が決まった。この操作を通して地球の公転方向が全員に明確になっていった。

続いて、今夜0時に南中する星座を予想。星座の見える時刻や方角へと意識を向けさせる。B先生はパソコンのプラネタリウムソフトで生徒の予想した「魚座」を映して確認した後、「見える星座は月日の経過と共にどう変わっていくだろう」と発問。

ここで威力を発揮したのが班ごとに用意されたホワイトボードである。図を描きながら意見を交換する問題解決ツールとなっている。クラス全体ではあまり意見の言えない生徒も図を基に気軽に話し合えるので、自分の考えが出しやすい。

各班の発表から、十二星座が一月で一つずつ動く集約された。そのとき、C男が「これでは天動説となつて、違っている」という意見を出した。星座の見え方の変化だけを考えていた他の生徒も、地球が動くことにより、見える星座が移っていくという考えへと修正できた。

最後に、再度プラネタリウムソフトを使って、月日の変化に応じて星座が変化することを検証していった。教師の教材・教具や発問の工夫により生徒の理解が定着したのは言うまでもない。

# 活性化するスポーツ少年団



▲ 白熱するサッカー交流会

スポーツ少年団は、「スポーツによる青少年の健全育成」という理想の実現を目指し、現在、全国で約四十種目、一〇〇万人を越える団員が活動している。

本市でも、学校週五日制実施以前の平成三年度には、登録団数二十三、団員数二二〇〇人余りだったのが、現在では、三十七団体、約二二〇〇人が登録しており、団体数、団員数ともに大幅に増加している。さらに、全国的にも数少ない「岡崎ボウリング」や、就学前の子供たちにスポーツの楽しさを知ってもらうことを目的とした「子ども体育トレーニング」など、特色ある団体も設立され、スポーツの裾野を広げる役割を担っている。

また、近年これらのスポーツ少年団同士の交流を深めるための本部事業も充実してきた。三十年以上続く「スポーツ少年団大会（運動会）」に加え、スキー研修や野外研修、臨海実習など、様々な交流イベントが行われるようになった。臨海実習では水難事故の対処法や心肺蘇生法などの講習が行われている。その他にも、中・高生を対象とした研修やドイツとの交流派遣事業などもあり、将来の地域のリーダーとしての資質向上にも力を入れて取り組んでいる。

いろいろな種目があり、だれもが入団できるスポーツ少年団の活動は、スポーツ好きな子供たちにとって選択肢が広がり、自分にあつたスポーツを楽しめる場として歓迎されている。スポーツ少年団で活動した子供たちが、スポーツの楽しさを後輩に伝え、さらには指導者となって団を引き継ぎ、スポーツ少年団がさらに充実・発展していくことを期待したい。



▲ 体力テスト



▲ 飛騨高山スキー場でのスキー研修

充実する本部事業

近年設立された少年団



▲ 岡崎ボウリング



▲ 子ども体育トレーニング



▲ 生和会空手道



▲ 福岡フットベース

平成3年度登録団体

番	団名	団員数
1	岡崎子ども体育教室末広会	118
2	岡崎子どもバスケットボール	51
3	岡崎乗馬	21
4	岡崎少年剣道	85
5	岡崎少女なぎなた	15
6	岡崎少年空手道	163
7	岡崎子どもバレーボール	49
8	岡崎ラグビーフットボール	120
9	岡崎子ども女子体操	92
10	岡崎少年少女ソフトボール	37
11	岡崎福岡ラグビーフットボール	39
12	岡崎福岡サッカー	44
13	岡崎福岡剣道	10
14	岡崎福岡バレーボール	31
15	岡崎福岡バスケットボール	30
16	岡崎福岡バドミントン	21
17	岡崎矢作ラグビー	72
18	岡崎矢作バレーボール	47
19	岡崎西少年サッカー	137
20	上地サッカー	74
21	上地バレーボール	12
22	大樹寺バレーボール	32
23	岡崎福岡空手道	69
計		1369

岡崎のスポーツ少年団の推移

平成17年度登録団体

番	団名	団員数	※順不同
1	岡崎こども体育(体操)	121	
2	子どもバスケットボール	105	
3	岡崎乗馬	7	
4	岡崎少年剣道	48	
5	岡崎なぎなた	12	
6	少年空手道	252	
7	岡崎子供バレーボール	100	
8	岡崎ラグビーフットボール	72	
9	岡崎こども女子体操	67	
10	岡崎市ソフトボール	58	
11	福岡ラグビーフットボール	7	
12	福岡サッカー	77	
13	福岡剣道	23	
14	福岡バレーボール	26	
15	福岡バスケットボール	38	
16	福岡バドミントン	20	
17	矢作ラグビーフットボール	8	
18	矢作バレーボール	53	
19	西少年サッカー	153	
20	上地サッカー	72	
21	大樹寺バレーボール	48	
22	福岡空手道	54	
23	ハッピー乗馬	9	
24	岡崎ボウリング	25	
25	生和会空手道	41	
26	六ツ美空手道	53	
27	岡崎少年野球教室	20	
28	美川クラブ(野球)	32	
29	矢南アローズ(野球)	16	
30	矢作バンビーズ(野球)	15	
31	岡崎南少年野球	64	
32	福岡フットベース	19	
33	六ツ美JVC(バレーボール)	25	
34	六南クラブ(バレーボール)	13	
35	岡崎ジュニアバドミントン	24	
計	35団体	1777	



▲ スポーツ少年団大会での綱引き

岡崎市本部のみ

1	幼児体育	210
2	子ども体育トレーニング	355
計		2342



▲ 日独スポーツ少年団同時交流会



▲ 臨海実習での心肺蘇生法講習会

# お知らせ

## ● 教育最新情報

### ○不登校問題

子供たちは、社会状況の大きな変化の中で、大人に向けて様々なシグナルを送っている。被害者意識の強い子・やる気が出ずにぼんやりしている子・着席ができずに動き回る子・運動が苦手なことを極端に気にする子・気分が左右される子・手にした物をすぐに投げてしまう子など、実に様々である。

これらの初期反応（兆候）を見逃さず、その一つ一つに丁寧に対応していくことで、不登校の問題に発展することを防ぐことができる。

ところで、岡崎市の不登校児童・生徒数は平成十四年度、十五年度と減少してきたが、平成十六年度は残念ながら微増した。不登校対策への一層の努力を期待したい。



### ○岡崎市の取組

#### スクールカウンセラーの配置

本年度は三校増え、中学校計十五校となった。週八時間、年間一八〇時間の対応ができるようになった。また、三中学校には「こころのアドバイザー」が巡回訪問をしている。

#### メンタルサポート事業

人とのかわりな苦しい児童・生徒の家庭を訪問し、よき相談者としての立場から側面的に援助している。本年度は三名の方が登録し、現在二人の子供への対応をしている。

#### 臨床心理士による相談活動

研究所に所属する三人の臨床心理士による昨年度の相談者は次のとおりである。

二学期以降は相談者が増え、相談枠に空きが無い状況となった。そこで、本年度は、年度後半に多くの相談時間を設定して進めている。

平成 16 年度相談者数	
研究所	747 人
巡回相談	528 人
公衆衛生センター	101 人
ハートピア	177 人
総計	1553 人

#### 教育相談サポーター

子供たちのための「心の居場所づくり」を支援するために、大学で臨床心理士を目指して勉強している学生によるボランティアサポーター活動が、学校やハートピア、研究所などで七月から始まった。若さと活動への意欲が、不登校となった子供たちへの新たな活力を与えるチャンスとなることを期待している。



▲ 教育相談サポーター打ち合わせ会

## ● ハートピアだよ

### 同じ立場で

#### 親の集い 設立

四月当初、通所生の保護者Aさんから、「通所生の親の集いの会を作りたい」との話があった。同じ悩みを持つ方々が、同じ立場で行動できればと思いい、一緒に考えることにした。

第一回「親の集い」は、六月十六日に市教委の担当指導主事を迎えて開かれた。呼びかけに、九名もの方に集まっていた。

担当主事の話の後、それぞれの自己紹介に移った。

子供の状況を話しているうちに、涙で声をつまらせていた。みんな真剣な顔で、話をしている人を見ていた。予定された時間をはるかに過ぎて

も、自己紹介は終わらなかつた。話を聞いていたうちに、我が子と重なってしまったのか、ハンカチで目頭を押さえている人も見られた。会が終わって、集まった方々の顔は、始めたときと比べ、なぜか明るい感じであった。「いろいろ

んな人の話を聞くことができてもよかった」「うちの子は、まだまだだよいほうだ」「みんな同じ事で悩んでいるのだと思つた」等々、自然に感想が話されていた。中でも、Bさんが「子供が、学校へ行けないことを幾度もしかつていたが、行けない理由が病気であることが分かり、今は、行かなくてもいいんだと、考えを変えたことがよかった。親が子供を理解し、親が変わらなければいけない」と、言われたことが印象に残っている。

第二回は、七月十三日にカレーライスで親子会食をし、多くのふれあいがあった。

この輪の広がるのを見守りたい。



▲ 第2回 親の集い カレーライス会食 (ハートピア中庭)

●表 彰

◆第二十七回愛知県中学生相撲大会

優勝 新香山中二年 吉田圭佑  
3位 美川中三年 山本光彦

※二人とも全国大会出場決定

◆ペシカップ第二十五回全日本

バレーボール小学生大会(県大会)  
男子の部 優勝 矢作南小学校

※全国大会ベスト8

準優勝 竜美丘小学校  
3位 大門小学校

◆第二十七回東海小学生バレーボール大会

男子の部 優勝 矢作南小学校  
準優勝 竜美丘小学校

◆第十二回愛知県中学校カヌー大会

男子総合優勝・女子総合優勝  
男女総合優勝(十回目)  
新香山中学校

◆愛知県吹奏楽コンクール

西三河北地区大会

●A編成の部  
金賞(県大会出場) 岩津中学校  
●B編成の部  
金賞(県大会出場) 新香山中学校

◆第四回東京国際和太鼓コンテスト

組太鼓部門青少年の部  
大樹寺小学校和太鼓部  
(全国大会出場)

◆第二回愛知レディス陸上競技大会

中学砲丸投げ  
準優勝 美川中二年 山本朋未

●海外姉妹都市交流事業

岡崎市では、中学生(姉妹都市・友好都市)交流事業として親善訪問団を派遣している。本年度の派遣は、次のとおりである。

○呼和浩特 9/5~9/13

〈団 長〉 明保 俊通 矢作北中  
〈副団長〉 清松 治子 岡崎小  
〈団 員〉 池田悠祐(甲山)・天野 剛(東海)

藤井明日香(河合)・伊藤優佑(常磐)  
落合志帆(矢作北)・豊田 愛(竜南)

岡松沙希(北)・太田 浩史(志美)  
○ニューポートビーチ 9/26~10/5

〈団 長〉 石原 雅充 竜南中  
〈副団長〉 金指由香里 上地小  
〈団 員〉

丸尾 若菜(岩津)・和田拓也(矢作)  
土川 彩乃(志美)・長坂真人(誓山)  
○ウツデバラ 10/21~10/29

〈団 長〉 菅沼 国雄 市教委  
〈副団長〉 都筑 香理 志美北中  
〈団 員〉

安藤 菜那(美川)・杉浦 史朗(南)  
為ヶ谷 優(竜海)・鶴田 亜衣(葵)  
杉坂 大志(城北)・小嶋 郁子(福岡)

●第58回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の記録

種 目	性	優 勝	2 位	3 位
陸 上 競 技	男子	甲 山	葵	東 海
	女子	竜 南	六ツ美	矢作北
バスケットボール	男子	矢作北	竜 海	甲 山
	女子	竜 海	北	美 川
バレーボール	男子	竜 海	北	竜 南
	女子	矢作北	六ツ美	北
ソフトテニス	男子	常 磐	矢作北	竜 海
	女子	矢作北	福 岡	幸田北部
卓 球	男子	幸田北部	幸 田	幸田南部
	女子	美 川	額 田	六ツ美北
体 操	男子	美 川	額 田	東 海
	女子	南	東 海	竜 海
新 体 操	男子	甲 山	常 磐	葵
	女子	南	北	額 田
剣 道	男子	甲 山	常 磐	葵
	女子	南	北	額 田
ハンドボール	男子	葵	美 川	六ツ美
	女子	六ツ美北	竜 南	六ツ美
軟 式 野 球	男子	六ツ美北	南	美 川
	女子	幸 田	矢作北	竜 海
ソフトボ	男子	甲 山	矢作北	六ツ美北
	女子	甲 山	竜 南	矢 作
柔 道	男子	甲 山	竜 南	北 野
	女子	甲 山	竜 南	矢 作
サ ッ カ	男子	甲 山	竜 海	南
	女子	甲 山	竜 海	東 海
水 泳	男子	矢作北	竜 海	北 野
	女子	竜 海	矢作北	矢 作
弓 道	男子	額田A	額田B	
	女子	額田A	額田B	



▲ 市長とともに ~三都市親善訪問使節団合同結団式~

●平成17年度岡崎市小学校体育大会の記録

種 目	性	優 勝	2 位	3 位
ソフトボール	男子	北 野	矢作南	矢作東
	女子	大 門	連 尺	矢作東
バレーボール	男子	矢作南	竜美丘	大 門
	女子	上 地	六 名	北 野
バスケットボール	男子	竜美丘	大樹寺	緑 丘
	女子	岡 崎	美 合	竜 南
サッカー	男子	岡 崎	小豆坂	羽 根
	女子	岡 崎	小豆坂	羽 根
水泳競技	北ブロック	男子	広 幡	矢作東
		女子	附 属	矢作北
	南ブロック	男子	六ツ美北	三 島
		女子	三 島	山 中

●第58回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
男子総合	矢作北	甲 山	竜 海	六ツ美北	矢 作	南
女子総合	矢作北	南	竜 海	北	矢 作	甲 山
男女総合	矢作北	竜 海	南	甲 山	矢 作	六ツ美北



▲ 平成17年度岡崎市小学校体育大会・水泳競技

・カ  
ツ  
ト  
奥殿小坪井恵里子

## 上地学区親子夏祭り

(平成4年)

写真提供：上地小学校

上地小学校は市内三十九番目の小学校として開校した。開校当時の学校の周りは山ばかりで、建物がない状態であった。その後、学区に建物が増えるとともに児童数も増え、学校も大きくなってきた。今年度、開校二十三年目を迎えたが、五月の運動会、八月の上地学区親子夏祭りなど、開校以来様々な行事を学校と学区とが一緒に行っている、ともに発展してきた歴史がある。

現在、学校と地域とが連携して、児童を心身共に健やかに大きく育てる教育が求められているが、上地学区と学校は、その一つのモデルケースと言える。



思い出いつぱいの夏休みも、甲子園の高校野球で幕を引く感がある。猛暑の中、郷土の期待を背負い、ひたむきにプレーする選手の姿や、アルプススタンドの力強い応援風景を見ると心が熱くなる。子供たちの精一杯な取組に新たな発見と感動を期待する。二学期が始まった。

縞模様のシャツにノーネクタイ。目にも涼しげな「クール・ビズ」。

今年の夏は、省エネに一役買った人も多いだろう。地球温暖化の影響が、九月に入ってもまだまだ残暑が厳しい。当分はこのスタイルも続くであろう。しかし、身だしなみには注意したい。もうすぐ秋風さわやかな季節を迎える。

## シオ スア

汗にまみれてゲームに集中する子供たち。その一心不乱な姿に胸が熱くなる。負けて涙が止まらず、勝って喜びの涙が溢れてくる。これまでの苦勞が一気に込み上げる。夢中になれることは素晴らしい。子供の心を動かし心に訴える体験が、子供を逞しく成長させる。

スポーツ少年団にも指導者の高齢化問題があるという。ボウリングの指導者は七十歳を越えた今なお、ボウリングの普及を熱心に語られた。フットベイスポールの指導者もやはり。彼らの熱意を感じ取り、受け継いでくれる若者が現れることを期待してやまない。



- \*子どもの集中力を育てる 齋藤 孝 文藝春秋 ￥1000
- \*大人の言うことを聞きなさい 佐藤 貴彦 草思社 ￥1470
- \*リサイクル幻想 武田 邦彦 文藝春秋 ￥693
- \*問題な日本語 北原 保雄 編 大修館書店 ￥840

### \*小学生、学力急上昇の勉強法

杉田 久信 ￥1365  
二見書房

タイトルよりも著者が小学校長であることに引かれてこの本を手にした。マニュアル的な勉強法というよりは授業論であり、学習指導法の根底に関する議論が、内容の中心である。

反復練習、音読・暗唱が、実は脳の深いところを刺激し、これによって「できる」状態を作ることがまず大切だという。学校の教育課程に取り入れ、子供の学力定着に有効であるとの、様々な実践事例が大変興味深い。